

第37回

うつのみやこども賞だより

令和2年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『朝顔のハガキ』

山下みゆき／作（朝日学生新聞社）



令和2年7月5日

～読んだ本の感想より～

- 親子・兄弟・家族の愛、そして昔と今の出来事や心情、いろいろなものが絡み合っとても感動的な物語になっていて、すごく好きでした。
- 主人公と兄が電話で話をして仲直りした場面で、自分の気持ちをしっかりと相手に伝えるのは、大切だと思った。
- 2人の視点から物語が進んでいくことが面白かったです。家族の大切さを知れるお話しだと思えます。
- 物語の感じがふわっとしていて、わたしが好きな感じで読みやすかった。家族のことをきちんと考えられて、いいなと思った。
- 誠矢があいに行った義一さんとおばあちゃんの関係などがおもしろい&意外な事実など、おどろくことがたくさんあった。夏休みでも目標を決めてがんばるのはすごい。

『ずっと見つめていた』

森島いずみ／作（偕成社）

- 自然と共に生きていく家族の姿が描かれていました。いなかの風景が頭の中にかんできました。ビルなどがならんでいる所に住んでいる人たちにとくに読んでもらいたいです。
- 妹の病気のため田舎に引っこした主人公の生活の起承転結がしっかりしているため、読者を本の中に引きこむ工夫がされているなと思いました。
- つぐみの化学過敏症が弱くなってよかった。慎太郎がいてよかった。
- 身近にあるのに意外と知らない病気のことを知れてよかった。
- いろいろな事件がおきる中で、つぐみはいつも、私ととらえ方・見方がちがいました。そんなつぐみとくらす兄は、最初はつぐみの生き方をかんちがいしているみたいなき感じだけど、すこしずつ理解し、つぐみのよさが分かって、本当に感動的なお話でした。

『はじめまして、茶道部！』

服部千春／作（出版ワークス）

- 最初は、「茶道部なんて男がやるものではない」と思いましたが、この本を読んで改めて、「男も茶道部ができる」と思いました。
- なつめと陽介のやりとりがとてもおもしろかった。茶道はやったことがなく、読んでいて、「おいしそうだな」、「やりたい!」と思った。
- 男の子の茶道部って、すごくかっこいいと思った。私も茶道をやってみたくなるような本でした。
- 自分も好きなしゅみもあるが、たまには他のことにも目を向けてみたいと思う。

『とりかえっこ』

泉啓子／作（新日本出版社）

- さいごにチルとおねえちゃんが仲直りしてよかった。おねえちゃんとチルがおまけのとりかえっこをして、楽しそうだった。
- 私は、相手のことがうらやましくても自分の家だったら慣れているし落ち着くから、2人とも家に帰りたいたいという気持ちに共感した。
- 私には妹がいるからとても共感できる場所が多かった。姉妹ゲンカのおそろしさをあらためて知った。
- 主人公がと中で気づいたように、友達との生活など、ふだんが1番幸せ。自分もふだんから友達や家族を大切にしたい。